

令和8年度 三芳地区タウンミーティング 発言要旨

【日 時】令和 8 年9月6日(日)10:00～11:30

【場 所】三芳公民館

【参加者】地域:14 人(連合自治会長ほか)、傍聴:6 人

市:市長、教育長、教育委員会事務局長、教育指導監、防災危機管理課長(危機管理監代理)、三芳民館長(司会)

【テーマ】(1) 防災について

(2) 小中学校の統廃合について

(3) 地域活性化対策について

(4) フリートーク

①三芳公民館前の信号機の設置について

②大明神川の管理について

③東予授産場跡地の管理について

④日泉ポリテック南側道路の管理について

⑤西条市の議員の数について

⑥地域間のしこりについて

⑦三芳公民館前の信号機の設置について(2)

R8.9.6 当日の発言内容

■参加者

- ・本日はこの三芳地区へ新進気鋭の市長さんをお迎えしてのタウンミーティング。
- ・市長の考えを様々お聞きたい。
- ・三芳地区の現状や課題について皆さんと共有し、ともに考え話し合い、より魅力的で住みやすく、愛着の持てる三芳にするため、皆さんからざっくばらんな意見をいただきたい。

●市長

- ・三芳地区の今後について、地域の皆さんと一緒に考えていきたい。
- ・防災、地域活性化、若者の定着など、地域が抱える課題は共通している。高齢化や担い手不足により、草刈りや農地管理など、これまで地域で担ってきた活動も難しくなっている。
- ・こうした課題について、市もサポートしながら、地域全体で支える新たな仕組みを考えていくことが重要である。
- ・三芳地区は、かつて駅や商店街を中心に栄えてきた地域である。今後は周辺地域とも連携し、5 年、10 年、20 年後の地域の姿を考えていきたい。
- ・本日のタウンミーティングをきっかけに、1つでもいいので、地域の皆さんと課題を共有し、具体的な解決につなげていきたい。

(1)防災について

■参加者

- ・南海トラフ地震は、おおむね 100～150 年周期で発生してきた大規模地震であり、昭和東南海地震・昭和南海地震から約 80 年が経過していることから、いつ発生してもおかしくない状況である。
- ・大規模災害に備えるためには、一人ひとりの防災意識を高めるとともに、地域における自助・共助を広げ、地域と行政がどのように連携していくかを考えることが重要である。
- ・近年、各地で発生した災害では、避難所の運営についてさまざまな課題が指摘されており、性被害などの問題も明らかになっている。こうした課題を踏まえ、市として避難所運営をどのように考えているのか伺いたい。

●市長

- ・南海トラフ地震は、今後 30 年以内に発生する可能性が高いとされている。
- ・大規模災害が発生した場合、職員自身も被災するため、十分な人数が市役所や避難所に参集できるとは限らない。実際、阪神・淡路大震災の被災地である芦屋市では、発災後に市役所へ参集できた職員は 85 名であった。
- ・そのため、行政だけで避難所を運営することには限界がある。平時から自治会、公民館、消防団、PTA などが連携し、避難所の開設・運営や避難者の受付、要配慮者への対応などを具体的に決めておくことが重要である。
- ・市内で地区防災計画を作成している地域は現在 5 地区であり、是非三芳校区の計画と一緒に作成していきたい。
- ・市としても防災訓練への補助などを通じて地域の取組を支援している。地震だけでなく、豪雨など災害の種類によって対応も異なるため、まずは命を守ることを最優先に、三芳校区でも地域の皆さんと連携し、地区防災計画の策定と訓練を早期に進めていく必要がある。

■参加者

- ・地区防災計画について、「補助金を出すけど、地域でやってね」っていう感じで聞こえる。
- ・市が一括して進めるのではなく、各地区がバラバラで取り組むということなのか確認したい。

●市長

- ・地区ごとに地形や環境が異なるため、一律ではなく各地区の実情に合わせた計画を皆さんと共に構築する。
- ・市からの補助金も活用しながら、毎年テーマを絞った防災訓練を計画的に実施し、地域防災力の向上と一緒に進めていきたい。

■参加者

- ・地域での避難所運営において、地域住民が自主的に取り組む必要性や、そのための事前の準備が重要であることを理解している。
- ・先ほど話題にあがった計画づくりだが、自主防災組織を通じて呼びかけられたのか？

●防災危機管理課長(危機管理監代理)

- ・地区防災計画の策定にあたっては、自主防災会などを対象とした防災講座を開催し、計画づくりへの参加を呼びかけている。
- ・三芳地区では、単位自治会レベルでの自主防災会の結成率が 100 パーセントに達している。
- ・そのため組織基盤は十分に整っており、行政による伴走支援を軸に、地域の住民が「やってみよう」という前向きな気持ちを持ってもらえるよう働きかけていきたいと考えている。

●市長

- ・付け加えると、現在、被災した熊本県氷川町八市の職員を派遣し、避難所運営を支援している。
- ・高齢化が進む地区などでは自主的な運営が難しい場合もあり、行政側が回ってサポートを行っている。
- ・長期化する避難所運営において、避難所を運営できる組織がある地域とそうでない地域との間に大きな差が生じている。
- ・災害発生直後の空腹を満たす段階から、生活習慣病や災害関連死を防ぐための栄養バランスの取れた食事管理(栄養士の関与など)へと避難所の支援が次の段階に移っているとのこと。
- ・そうした避難所運営の実態や課題も含めて、今後地元住民と共に話し合っていきたいと考えている。

■参加者

- ・三芳地区で一番身近に迫った災害っていうのは、大明神川の決壊だと思う。
- ・1 日 300 ミリの雨量を想定した場合、地域全体が水浸しになる。
- ・現在の避難所である公民館よりも、隣接する交流センターの方が地盤が高いため、水害時の避難場所として適しているのではないかと。

●市長

- ・交流センターも避難場所になっているので、地区防災計画でそういったことを決めていくのが良い。
- ・将来的には中学校区単位での避難や、標高の低い地域の学校から別の学校への避難など、広域的な連携や合同訓練も必要。
- ・大明神川などの氾濫リスクに加え、大雨の際には瀬戸内海の潮の満ち引き(大潮など)が水位に大きな影響を与えるため、潮の状況も踏まえた判断が重要である。
- ・災害を防ぐためには山の手入れも今後大切な話になってくる。

(2)小中学校の統廃合について

■参加者

- ・令和 8 年 5 月 1 日時点の児童・生徒数は、三芳小学校が 71 人、楠河小学校が 77 人、庄内小学校が 51 人、河北中学校が 114 人となっている。
- ・また、三芳小学校では 2・3 年生、庄内小学校では 2・3 年生と 4・5 年生が複式学級となっている。
- ・児童・生徒数の減少を踏まえると、統廃合もやむを得ないのではないかと思う一方で、「学校がなくなれば地域が寂れてしまうのではないかと心配する声も強くある。

- ・小中学校の統廃合を進めるに当たり、地域から寄せられているこうした声をどのように反映していくのか。
- ・また、今後の市としての方向性や、具体的なスケジュールについても伺いたい。

●教育長

- ・西条市では、児童・生徒数の減少を背景に、学校の適正規模・適正配置について検討を進めてきた。
- ・令和４年の保護者・教員アンケートでは、約７割が学校再編について「必要」または「やむを得ない」と回答している。
- ・令和５年度から検討を進め、令和７年１月には審議会から答申を受け、令和８年６月に基本方針を策定した。現在は、８月３日から９月１日まで実施したパブリックコメント等で寄せられた市民の意見を取りまとめている段階である。
- ・基本計画案では、教育的な視点を第一に、中長期的な視点で学校規模の適正化を進めることとしており、計画期間は２０５０年までの約２５年間としている。
- ・三芳校区を含む東予地域については、第１期計画で三芳小学校・楠河小学校・庄内小学校の３校を統合する方針である。
- ・ただし、統合を一方的に進めるのではなく、市から住民説明会などを通じて情報を提供し、保護者や地域住民との共通理解を図った上で、学校単位の地元協議会を設置して具体的な協議を行うとしている。
- ・その後、地区代表者による合同協議会で合意形成を図り、統合準備の段階では準備委員会を設置する。
- ・また、児童・生徒の事前交流、通学路の安全確認やスクールバスの導入、施設整備、保護者への早期の情報提供などにも配慮する。学校跡地の活用についても、地域の意向を十分に踏まえて検討するとしている。
- ・市では、地元協議会の設置から新しい学校の開校まで、おおむね３～４年程度を想定している。

■参加者

- ・パブリックコメントの意見は出ずらいとは思いますが、実際どのような意見が出てきたのか？

●教育委員会事務局長

- ・基本方針案に対するパブリックコメントでは、１８６件の意見が寄せられた。
- ・これは、これまで市が実施したパブリックコメントと比較しても、かなり多い件数であったと認識している。
- ・一方、今回の基本計画案に対するパブリックコメントでは、２０件の意見が寄せられた。
- ・今後、これらの意見を踏まえて基本計画を策定する。
- ・計画策定後、住民説明会や地元協議会の立ち上げを進めていく予定である。

■参加者

- パブリックコメントの意見として、どういったものが多かったのか？

●市長

- ・地域からは、「学校がなくなると地域が廃れるのではないか」という意見があった。
- ・一方、「学校教育については、子どもの将来を考え、適正な規模で教育環境を整えることを優先してほしい。」という意見があった。
- ・河北中学校については、東予西中学校と１校に統合する方向で進めたいと考えている。

- ・学校再編と地域づくりは、別々に考えるのではなく、両方を並行して進めていく必要がある。
- ・地域づくりについては、40 代、50 代、60 代前半くらいの世代を中心に、地域を今後どうしていくのか、地域の皆さんと話し合っていきたい。

■参加者

- ・今後、地域住民からはさまざまな意見が出てくるのが想定される。
- ・その意見を丁寧に拾い上げながらも、基本計画に沿った形で地域の理解を得ていくことが重要である。
- ・学校再編は保護者だけの問題ではなく、地域全体の課題として捉える必要がある。
- ・保護者だけでなく、自治会などにも情報を共有し、地域全体で共通認識を持てるようにしてほしい。

■参加者

- ・三芳校区の学校再編はいつ行われるのか。肌感覚として、PTA は早く実現することを望んでいる。
- ・今回頂いた資料を使って PTA へ説明したり、必要な個所を抜粋したりすることは問題ないか？(情報共有)

●市長

- ・はい。あと、今後児童生徒数の今までの流れや今後どうなるかという資料もあるので、それは出していく。

■参加者

- ・昨年度配布された資料では、今後の入学者数が 4～5 年後には 7 人、3 人となる見込みが示されていた。
- ・基本計画では令和 17 年度までの約 10 年間を計画期間としているが、そこまで待つと児童数が大幅に減少し、対応が遅くなるのではないかと感じている。
- ・一保護者として、学校再編の時期をもう少し前倒しし、できるだけ早く進めてほしい。

●市長

- ・市からも情報提供を行い、地域からさまざまな意見を聞きながら、学校再編を前に進めていきたい。
- ・今後は説明や検討だけでなく、具体的に行動を起こしていく段階に入る。

■参加者

- ・もし計画を早めるとしたら、どのような準備が整えば早めることができますか？

●市長

- ・三芳小・楠河小・庄内小の統合だけでなく、河北中学校と東予西中学校との統合の兼ね合いもある。
- ・その点も全部合わせて、市から地域へ具体的な情報を提供しながら進めていきたい。

(3)地域活性化対策について

■参加者

- ・人口減少や少子高齢化により、三芳地区の活力が低下し、地域が寂れていると感じる住民も多い。地域活

性化に向け、市としてどのような施策を考えているのか聞きたい。

- ・高齢化により、一人暮らしや高齢者のみの世帯が増え、地域だけで支え合うことが難しくなっている。公的支援の充実について市の考えを伺いたい。

- ・地域福祉を支える上で、社会福祉協議会の役割も重要になると考えており、活動や体制の充実について市の考えを聞きたい。

●市長

- ・人口減少への対策として、まずは若い人が働ける場所を市全体でつくることが重要。農業をはじめ、造船、半導体、木材など地域の産業を成長させていく。

- ・特に若い女性の流出が課題であり、企業や高校とも連携し、女性が活躍できる場を増やしていきたい。

- ・若い世代が地域に戻ってくるためには、雇用だけでなく、教育、医療、買い物、子育て環境などを含めた暮らしやすさを整える必要がある。

- ・人口減少に伴う空き家の増加など、これまで経験したことのない課題もあり、模索しながら取り組んでいく。

- ・地域づくりでは、30～50代の子育て世代など、次の世代が地域活動に楽しく参加できる仕組みをつくり、徐々に世代交代を進めることが重要。

- ・一部の人に地域活動の負担が集中するのではなく、地域にいるさまざまな特技や経験を持つ人材を発掘し、みんなで地域を盛り上げていくことが必要。

- ・三芳地区を、住みやすく、外から来た人や子育て世代も受け入れやすい地域にしていくため、地域と一緒に考え、試行錯誤しながら取り組んでいきたい。

■参加者

- ・地域活性化の拠点として、地元公民館の役割が重要である。

- ・公民館に人が集まり、交流やコミュニケーションを深めることで、地域のつながりや活性化につながると考える。地域の輪を広げるため、公民館を中心にさまざまなイベントや企画を実施してほしい。

- ・社会福祉協議会の立場から。一人暮らしや身寄りのない高齢者の終末期を地域で支える仕組みについても検討してほしい。

- ・最期まで地域で温かく支え、見送ることのできる地域づくりを進めるため、社会福祉協議会本部などにも働きかけていきたい。

■参加者

- ・三芳地区を「ボランティアの町」にしたいという思いがある。

- ・自分のためではなく、人のために何ができるかを考えて活動することが大切。

- ・若い世代にも地域活動への参加を呼びかけ、支え合える地域にしたい。

- ・小さな活動の積み重ねが、地域のつながりや活性化につながる。

■参加者

- ・自治会離れが深刻化しており、会員減少によって存続が難しい自治会も出ている。

- ・自治会離れを防ぎ、地域活動を維持するための市の考えや対策を聞きたい。

●市長

・悩んでいる。やっぱり離れていってますか？高齢者の方も独居になると離れていく方もおられますか？

■参加者

- ・逆に、高齢者の方が残る。一番動ける人が出ていく。
- ・例えば自治会の役をやるのが嫌だからやめる。それが一番多いかもしれない。

●市長

- ・防犯灯とかゴミの集積場所どうするとかですね。
- ・市全体の自治会加入率は 50～60%。三芳校区は？

■参加者

- ・平均よりは上かなと。

●市長

- ・役が当たったり、お世話が大変だからというのはよく聞く。
- ・いざ地震が来ると大変なことになる。
- ・自分自身も悩んでいる。

(4)フリーストーク

①三芳公民館前の信号機の設置について

■参加者

- ・公民館前の交差点への信号機設置を従来から要望している。
- ・楠浜北条線が今年度末頃に国道 196 号線まで接続する予定と聞いており、信号機設置の見通しを確認したい。

●市長

- ・信号機は、道路の開通後、設置基準を踏まえて設置する方向で要望している。
- ・今年度、東予地域の市道は、この楠浜北条線と北条新田高松線が開通予定。

②大明神川の管理について

■参加者

- ・大明神川の土砂の堆積が心配
- ・護岸の雑草、樹木の生い茂りの管理をお願いしたい

●市長

- ・県が土砂を取り除いている。
- ・国土強靱化ということで、河川の浚渫や土手の草刈りも定期的に実施している。
- ・小さい河川や水路も、井手さらいしていないと、流れが悪くなる。全市的な課題として話を進めている。

③東予授産場跡地の管理について

■参加者

- ・除草が非常に繁忙している。適切な管理をお願いしたい

●市長

- ・除草管理は適切に行っていく。
- ・自分も田んぼの草を刈っているが、この酷暑によって、昔より1回2回草刈の回数が増えた。
- ・公園や歩道の除草管理もきっちり行っていく。

④日泉ポリテック南側道路の管理について

■参加者

- ・樹木の枝が垂れ下がっているので、剪定してもらえないか。

●市長

- ・9月末までに剪定する。

⑤西条市の議員の数について

■参加者

- ・西条市は人口に対しての議員の数が多いのでは？
- ・今治は人口 14 万あまりいて 28 人、新居浜は人口 11 万ちょっとで 26 人。西条市は 10 万そこそこで 28 人いる。削減する予定は？

●市長

- ・議員定数については、議会が特別委員会を設置して議論している。
- ・西条市は市域が広く、地域の代表を確保することも重要であるため、適正な議員数について今後議論を深めていく。

⑥地域間のしこりについて

■参加者

- ・合併後、旧西条市とそれ以外との間に、未だに地域的なしこりがあるように感じている。

・市長交代などをめぐる報道もあり、市外からも「西条市はどうなっているのか」と聞かれる状況について、市長の認識や今後の対応を聞きたい。

●市長

- ・合併から 20 年以上経過したが、旧市町間の地域意識にとらわれるのではなく、西条市全体で考えていくことが重要。
- ・西条市には、自然・農業・工業など多くの資源があり、大きな強みである。
- ・これらの資源を次の世代に引き継ぐため、地域と行政が一緒に取り組んでいきたい。
- ・地域づくりでは、公民館を拠点として地域を守り、西条市全体でまちづくりを進めていきたい。

⑦三芳公民館前の信号機の設置について(2)

■参加者

- ・小学校からも PTA 会長さんと連名で、交差点への信号機設置を市・警察に要望している。
- ・返答としては、現在は交通量が少ないことを理由に設置されていないということだが、道路開通後は交通量の増加や事故の発生が懸念される。
- ・事故が起きてからでは遅いため、国道への開通と同時の信号機設置を前向きに検討してほしい。

市長からのまとめ

- ・今日を地域づくりのスタートとし、防災計画の策定を早期に進めてほしい。
- ・学校再編についても、次の段階に進めるため、地域の協力をお願いしたい。
- ・地域づくりでは、こういった場を皆さんと共に作りながら、次の世代に繋げていきたいなと思っている。
- ・ふるさと納税を活用した地域活動への支援について、今後説明・共有していきたい。
- ・防災・学校・地域づくりについて、地域と行政が一緒になって取り組んでいきたい。

閉会あいさつ

- ・多くの意見や丁寧な説明に感謝。
- ・今後の三芳校区の未来に向け、地域で力を合わせて取り組んでいきたい。
- ・地域を支える重要な団体として、連合自治会としても活動を続けていきたい。
- ・今後も皆さんの協力をお願いしたい。